

「京都市立新設高校創設プロジェクト」に関する第2回有識者会議 会議概要

1. 日時 平成27年11月10日 火曜日

開会9:30 閉会11:30

2. 場所 京都市立西京高校 3階会議室

3. 出席者

【有識者】

- ・溝上 慎一氏（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
 - ・武田 靖史氏（村田機械株式会社 取締役 業務支援本部 本部長）
 - ・今野 圭子氏（京都市立中学校PTA連絡協議会庶務・近衛中学校PTA会長）
 - ・村上 久明氏（京都市立高等学校PTA連絡協議会会長・西京高等学校PTA会長）
- ※北川 進氏（京都大学物質-細胞統合システム拠点長，京都大学大学院工学研究科教授）は御欠席

【プロジェクト委員等（プロジェクト委員は下線）】

古池校長（塔南高），村上校長（西京高），田邊校長（七条中）

清水教育企画監，大黒指導部担当部長，三宅担当課長，川浪首席指導主事，辰巳課長補佐，末房指導主事，沖田（以上，市教委）

【塔南高校あり方構想委員会】

沓谷教頭，正木主幹教諭，松田教諭，飯島教諭

※黒澤教諭は欠席

4. 傍聴者 なし

5. 会議の概要

- (1) 開会の挨拶
- (2) 経過報告，検討スケジュール等について
- (3) 塔南高校からの報告
- (4) 中間まとめ（案）について
- (5) 意見交換
- (6) 閉会の挨拶

6. 主な意見

【新校のキーコンセプト，教育内容等について】

- ・ 塔南の先生方が良い学校を創りたいという意気込みは伝わる。しかし教員交流会で出ている意見は，どの高校にも共通して求められる内容であり，更なる特色化を検討する必要がある。例えば，
- ・ ①世界中から外国人が訪れるなど，様々な魅力を有し，グローバルな環境が身近にある京都の特性を活かす。②いわゆるボリュームゾーンとなる「学力中間層」が多く入学することを前提に，③「大学の進学実績」以外の新たな指標を検討すべきである。
- ・ また，新校での取組として，「総合的な学習の時間（以下，総学）」を軸に，アクティブラーニングやラーニングコモンズ，地域連携等の充実は前提として，総学のテーマを「京都」関連

に限ってはどうか。また、教育みらい科についても単なる教員養成を目的としていては、同じような学科やコースを設置する学校との差別化が図れなくなるので、「京都ならではの教員を養成する」観点からのカリキュラムを考えられないか。その他、京都の「地域教養科目」を設けたり、英数国理社の各教科について、それぞれ「京都」と結び付け、そのための教材を作成しても面白い。

- 新たな指標として、従前の指標に加え、「京都にある大学への進学率」や、「就職してからの京都へのUターン率」等の指標を検討してはどうか。更には「京都の大学へ進学することの意義」を生徒や保護者に説明できるようにしてほしい。こうした京都に関わる成果指標を作り、新しいタイプの学校となってほしい。
- 自身の海外勤務の経験から、海外では日本がどういった国なのか、京都がどういった地域なのか必ず聞かれる。まず自国や地域のことを学び、自ら語るができるようになることが重要。京都は海外からの訪問者が多いため、他都市と比べても多くのアドバンテージがある。
- 企業においては、国内の市場が縮小傾向にあり、海外への進出が加速しているため、より一層コミュニケーション能力が必要となってきた。若いうちから海外で営業として働いている社員は英語のみならず現地語も駆使し活躍している。こうしたグローバルに活躍できる人材育成のための教育を、高校段階で行うと打ち出せれば、新校の特色となる。
- 「普通科系」という中でいかに特色を出せるか。生徒にどういった力を身に付けてほしいかをしっかりアピールしてほしい。
- 京都は観光都市であり、外国人が多いため、自ら率先して外国人に対してコミュニケーションを取りにいけるような人間になってほしい。単に語学力だけでなく、国際的な感覚を身に付けることが必要。
- カリキュラムの中で、教師に教えてもらうだけでなく子ども同士で課題等について自ら考えるような機会を作ってほしい。生徒がそれぞれ自分の人生や、幸せとは何かについて、自ら考え、結論を出していくような機会も設け、「賢い市民」を育ててほしい。
- 中学生の親の立場としては、学力中間層の生徒を惹きつける魅力ある学校で、入学してくる生徒をしっかり育ててくれる学校となってほしい。
- また、「たくましく生きる力」を身に付けるため、定例的な学校行事だけでなく、生徒に様々な「体験」をさせてほしい。具体的には、「京都」を意識するならば、京都の企業と共同で取組を実施する等、頭だけでなく、心と体でも感じられる体験をイメージしている。
- 地域に開かれた学校も重要だが、同時に校内の生徒の安全確保も十分に図ってほしい。
- 新校においては、「社会に開かれた教育課程」として、例えば各教科の内容がいかに「社会とつながっているか」を示せるようなカリキュラムがよいのではないか。自ら学ぼうとする姿勢が身に付くと考える。
- 選抜制度の改革により、普通科であれ専門学科であれ、選ばれることが重要になっている。

そのために新校では、生徒にも分かりやすく、生徒を惹きつけるような明確な「キーコンセプト」が必要。

- ・ 高校卒業時の進路保障について、現実には良い大学を出ても社会につながらない人がたくさんいるため、進学者数だけを成果としてアピールしている学校には違和感を覚える。学歴に関わらず活躍できるということを、学校は生徒に教えるべきである。
- ・ 進学系コースとそうでないコースが併設されている学校においては、進学系のコースに所属していない生徒は自己肯定感が弱く、モチベーションもなかなか上がらない状態が見受けられることが多く、進学系のコースでなくても、他のことで自信を持てるようなカリキュラム等の工夫が必要だと考えている。
- ・ 特色化の一つとして、特徴的なカリキュラムを作ることが良いのではなかろうか。
- ・ 「楽しさ」は強調される傾向があるが、目的に向かっては「しんどさ」を体験させることも必要。
- ・ 委員の御発言であった社会に開かれた、社会とつながる教育課程とは具体的にどういったイメージか。例えば教科書で習う化学や物理の内容を応用した技術を活用し、製品を開発・製造している企業を訪問する取組等か。
- ・ 「特別活動」においては、学校の外へ出て、企業や地域と共に行う取組を、「教科」についてはその例のように、全ての教科・領域において、教科書で習う内容がいかに企業や地域に結びついているか、実感できるような取組をイメージしている。
- ・ 中学生が高校を選ぶ観点としては、①立地、②成果（進路）、③部活動、④校風が大きく挙げられる。特に④校風については学校のイメージにつながるものであり、塔南教員の意見交流会でも意見が出た「品格を備えて」、「地域や社会に貢献」等ということがキーワードになるのではないか。
- ・ 教科の中で、実社会との結びつきを示すことは難しい場合もある。それよりも実際に働いている人の姿を見せることのほうが生徒の意欲向上にも繋がるため、効果的だと考えている。児童生徒が企業の職場で、従業員の仕事内容や職場の様子を観察する「ジョブシャドウイング」は、就業観や学習意欲の向上に繋がるものとして勉強になる。
- ・ 現在、小学校とは「からくり」を材料に連携した取組を実施しているが、高校生ともなると、体験というよりも働く社員との交流のほうが有益であろう。先日はOB訪問のような形で洛水高校の生徒4人程度が、夏休みに3回ほど訪問してくれた。
- ・ 実際に企業に協力していただくには調整が大変なことが多く、企業と高校の間を取り持つコーディネーターや仕組みも考えなければならない。

- ・ 新校の特色として「京都」に関連付けたカリキュラム等を検討することとあわせて、生徒や保護者のニーズがあるかも検証していきたい。

【部活動について】

- ・ 現在部活への加入率は約 85%で、硬式野球部、吹奏楽部、陸上競技部を中心に加入者が多い。強化指定のあり方を含め、これからどの部活動を強化していくのか、また新校に継承していくのか今後検討していく。生徒全員が加入できる課外活動としての部活動が理想だと個人的には考えている。
- ・ 新校においては、福祉につながるような部活動があっても良いのではないかと。高齢化が進む中、地域に出向いて活動する機会も増えていくであろうから、地域連携の一助ともなる。また、長期欠席気味の生徒も参加できるよう、きめ細やかな対応ができる部活動のあり方も検討してほしい。
- ・ 学校生活に占める部活動の割合が大きくなりすぎないように、部活動を学校の中でどう位置付けるのか、他の教育活動との均衡を考えることが重要。

【中間まとめについて】

- ・ p1 前段について、「新・普通科系高校の創設に向けて」の導入部分に、堀川改革の文言があるが、10年以上前の話になるので、昨今の国の教育改革等の内容を踏まえた内容にすべきではないか。
- ・ p4「学校の基本コンセプト」について、「多様な進路希望への対応」、「地域連携」、「伝統文化」、「ICT」、「国際交流」等、あらゆる要素が含まれているが、際立ったキーコンセプトは無いため、精選すべきである。
- ・ p6「学校規模」について、部活動等、まとまった活動をするには一定の規模が必要。また規模が小さければ学校の活力にも影響してくる。「1学年で6学級(240人)」ではなく、8学級程度で検討してはどうか。
- ・ 施設の収容能力との関係もあるので一概には言えないが、生徒数が多い方が活力は生まれる。